

# 専門科目

**(心の健康科学コース開講)**

<p>【科目名】 心の健康科学総論</p>	<p>【担当教員】 氏名 尾崎フサ子 [研究室] E棟2階</p>
<p>【授業区分】 心の健康科学コース開講科目</p>	<p>[内線番号] 315</p>
<p>【授業コード】 DBMH 133</p>	<p>[メールアドレス] ozaki@nur.ac.jp [オフィスアワー] 授業日の 16時30分まで〈原則〉</p>
<p>【配当年】 1年次</p>	<p>【単位数】 1単位</p>
<p>【開講時期】 前期</p>	<p>【コマ数】 8コマ</p>
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>21世紀が「こころの時代」といわれるようになって久しい。私たちが健康を考える場合にも「こころ」の部分が大きく取り上げられるようになった。心身健康科学は、この人間のこころと身体の有機的な関連性に着目し、その心身相関が示す諸現象を科学的・理論的・実証的に体系付け、人間の健康を総合的に考究することを目的としている。</p> <p>ここでは日頃使用していない表現を活用しています。ここでの科学的とは、理論的とは、実証的に体系づけることとはどういうことかを自身のなかで想定して考えてきてほしい。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>「生涯健康」の重要度は高まりつつある。「こころ」「身体」の健康についての科学的な根拠に基づく健康施策・医療措置が求められ、同時に、科学技術は精神の解明へ向かおうとしている。物質から生命の解明の時代を経て、こころの解明が科学の対象となり、心身の健康を基礎に置き、実生活を視野にいれた科学のあり方が時代の要請となっている。</p> <p>ここでは、こころの解明とはどのように考えるか、具体的に議論したいと考えている。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>人間には、本来的にどんな試練にも立ち向かう力が備わっている。それによってどんな環境にあっても、どんな健康状態にあっても「生きがい」を実感することができる。提唱されているよりよく生きるための知恵 (knowledge for well-being) とは、私達人間が「生きがい」を得るために、最も大切な要素である。</p> <p>21世紀になって、科学は驚くべき速さで、既存の学問分野の枠を超えて発展している。個々の科学的成果がさらに大きく、全体にどのように発現していくか広い視野から常に考えることが大切である。心身健康科学は、人間のこころと身体の間を軸に、「ホリスティック・アプローチ」によって「生命」心身の健康問題をここで解決する科学的アプローチを学ぶことができる。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>心身健康科学は、人間の「こころ」と「からだ」の有機的な関連性を踏まえて「生命」「人間」「健康」「精神」について探求する。</li> <li>この新機軸の学問を誰に学んでほしいか・・・生命とは何か、人間とは何か、健康とは何か、心とは何かというテーマに関心ををもっているひとすべてである(著者：久住真理，心身健康科学概論 第2版)。</li> </ol> <p>【行動目標(SB0)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>健康に関して、正確で統合的な情報を得て、それに基づいて“よりよく生きる”ことを私たちは選択し判断していくことが必要である。</li> <li>心身健康科学はこころとからだの相関性を軸に人間を多面的・総合的に理解し、よりよく生きるための知恵を創出する特徴をもっている。</li> <li>心身健康科学を学ぶことによって、はじめて心身の健康や生涯健康の真の意味を理解し、「よりよく生きる」「人生の運用上手」という思いに至ることができる。</li> </ol>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>レポート (A4 3枚以下) により評価する。(レポート 100%)</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>授業が始まったら配布予定</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>心身健康科学概論 第2版 監修 久住眞里 発行 人間総合科学大学 紀伊国屋ウェブストア</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	心身健康科学とは	人間を「こころ」と「からだ」の有機的な関連性を踏まえて、生命、人間、健康、精神について探求する新たな学問領域である。	「こころ」と「からだ」を今まで一緒に考えましょう。	30分
2	よりよく生きるための知恵 (Knowledge for well-being)	心身健康科学では、生命、人間、健康、精神を対象とした様々な科学を統合し、人間が最も「人間らしくあること」につながる生活や人生の「質」に高い価値をおく。	学習内容の復習	30分
3	いのちの運用：ライフ・プロモーション (Life promotion)	よりよく生きるための知恵 (Knowledge for well-being) を理解し、生きる上で、1. 的確な判断と選択、2. 自らの健康と生活の質の向上、3. 生き方をよりよい方向へ向ける新しい概念	貴方は1～3のうち最も大事にしているところはどこですか。それはなぜ？	30分
	心身相関 (Mind-body correlation)	心身健康科学は、心身相関の科学的説明によって私たち生活者がこの知見を理解、実践し、「いのちの運用 (ライフ・プロモーション)」を実現することを目指す。	学習内容の復習	30分
5	自立と共生 (Self-reliance & interdependence)	人身健康科学概論の著者は自立と共生を下記のように定義している：自立：自分の足で立ち、自分の心で感じ、自分の命を燃やして生きていくこと、共生：先変万化の時の中で、万物を慈しみ感謝し、慎み深く、互いをささえ合い、ともに生きる責任を果たすこと。	学習内容の復習	30分
6	対象とする学際的な学問領域	心身健康科学はこれまでの健康科学の枠を踏み越え、多彩な学際領域を取り組み、最終的に「心身相関」の概念を検証・考察していくことになる。	学習内容の復習	30分
7	俯瞰統合的な取り組み	心身健康科学の対象とする「健康」領域でも、個人・地域・社会・地球規模の人類共通の健康問題が数多く存在し、その解決にあたっては、健康科学をはじめとする幅広い範囲の学問領域感を華橋する体系が必要とされる。	学習内容の復習	30分
8	総括	総括	最も印象に残ったところはどこですか。 A4 2枚以上を記載して提出してください。	30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

心が広がるような授業をめざします。

【科目名】 質的研究法特論	【担当教員】 氏名 尾崎フサ子 [研究室] E棟2階
【授業区分】 心の健康科学コース開講科目	[内線番号] 315
【授業コード】 h 134	[メールアドレス] ozaki@nur.ac.jp [オフィスアワー] 授業日の 16時30分まで〈原則〉
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8コマ
<b>【注意事項】</b> 《受講者に関わる情報》 看護は、「人間」という複雑な反応系にさまざまな現象がからみ合った臨床現場というリアルな世界で行われる実践である。そのため看護の対象となる人々の多様性や複雑性をとらえ、その問題の本質に迫ることができる質的研究は、看護実践の質を高めていくために欠くことのできない方法であるといえる。そして、質的研究と量的研究は、それぞれの基盤とする認識論の違いから相容れないものとされてきたが、近年では、両者は対立するものではなく、相互に補完し合うものにとらえられるようになってきている（これからの看護研究－基礎と応用－第3版 P78）。 《受講のルールに関わる情報》 質的研究は、個人の内面といった主観性も取扱い、観察される現象の意味についての解釈も重視される解釈学的アプローチをとる。質的研究の特徴は、個人の行為や反応の原因を、その人自身の判断や意志だけでなく、「文脈（コンテキスト）」（その個人が置かれた人間関係や周辺状況）の中で考えていくことにある。質的研究の長所は、事例研究の自由度の高さや、被験者の内的世界を取り扱える点にある。個人的情報の漏洩を防止する。	
<b>【講義概要】</b> ここでの質的研究法方法論は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice:EBP）の実現にむけた看護学と、その教育の充実・発展・革新に資する研究成果をうみ出す人材育成に必要な研究過程と研究方法が理解できる人材育成を目指す。学生は、研究過程を含む看護学研究方法の理解を通して、EBP および科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE: Evidence-Based Nursing Education）の根拠となりうる研究成果を導くために、必要な研究過程と研究方法を理解する。具体的には、看護学研究に関わる技術用語、研究デザインの種類や特徴、データ収集・分析方法など、研究成果に必要な基礎知識・技術を修得する。また、既存の看護学研究を批判的に精読するために必要な知識の修得を通し、系統的な文献検討に基づく研究計画作成の重要性を理解する。	
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> 1. 研究の基本的な進め方を身につける：観察研究、分析研究、さらには介入研究等。 2. 研究に必要な基礎知識を理解するため、研究に必要な基礎知識を理解する。	
<b>【行動目標(SBO)】</b> 1. 観察研究と介入研究に説明できる。 2. 数量的データに関する検定、および統計的推測について説明できる。 3. 相関と回帰について説明できる。 4. 研究とは何かが理解できる。 5. 研究には様々な方法があるので、一般に使用されているものについては説明できる。 6. 学術論文の構成を理解する。	
<b>【評価に関わる情報】</b> 《成績評価の基準・方法》 レポート（70％） 学習時の質問、反応（20％） 授業参加姿勢（10％）	
<b>【テキスト・教科書】</b> プリントを配布	
<b>【指定図書・参考書】</b> 1. 看護における研究, 編集 南 裕子, 日本看護協会, 2. これからの看護研究－基礎と応用, 編集 小笠原知枝・松木光子, HIROKAWA	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内 容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	質的研究と量的研究	質的研究は帰納的推論で行われており、研究対象とのかかわりなどを観察し、データ収集を行い、概念枠組みや仮設を見出していく。 帰納的推論で見出した仮設を検証するために複数のデータを収集して統計的に検証し、その確実性や法則性を明らかにする研究が量的研究であり、演繹的推論で行われている。	質的研究と量的研究の論文をそれぞれ1論文選択してください。 論文を読んだ感想を提出してください。	30分
2	質的研究の特徴と進め方	質的研究にも研究課題の明確化と文献検討が求められる。質的研究は研究者が現象の中に入りながら観察し、研究者自らデータを得る方法であることから、研究者自身が研究課題を認識し、そこでの現象を理解するための臨床経験が必要になる。	ここでの臨床経験はこれまでの自信の経験ですすめてください。	30分
3	質的研究のデータ分析の方法と実際	得られたデータは、研究者自身が過去の経験や知識と照合して、新しい考え方などを見出すために整理しなければならない。さらに、結果について一般化できるかどうかの視点で、最後のステップでは <b>概念枠組み</b> ・仮設創造につなげていく。	<b>概念枠組み</b> ：研究したい出来事や状況などをどのような視点でとらえるかが、科学的研究では大切である。この視点が、理論や概念枠組みと呼ばれる。	30分
4	データ収集と統計分析（1）	データとは、現象そのものであり、現象をある視点に基づいて抽象化してつくった仮象である。研究は、データを使って現象を記述したり関係を解明したり、説明したり予測したりすることである。データと現象の関連には、そこには必ず誤差を含んでいることを銘記しておく。	学習内容の復習	30分
5	データ収集の方法と統計分析（2）	<b>【誤差の計算式】</b> 誤差 = 測定値 - 真の値（母集団の値） データは、このように誤差を含んでいるが、量的データは主観の違いを超えて伝達できる。研究は、結果を、一般化・普遍化することを最終的な目標としているので、データも、一般化の可能性を具現していなければならない、 <b>一般化可能なデータが好ましいデータである。</b>	学習内容の復習	30分
6	質的なアプローチ	人間の認識、行動、感情、信念は客観的に観察しにくいことから、質的な研究が望ましいとする研究者がいる。また、人間の1つの行動を例にとっても、人間の感情や理性、信念などの内的な世界と、その人間を取り巻く環境やその相互作用によっても異なるので、それらを論理的、分析的、客観的、および量的に測ることは難しく、むしろ総合的、主観的、相互作用的なとらえ方が必要となる。	質的なアプローチは研究をはじめる最初に実施している場合が多い。	30分
7	質的研究デザインの種類	<b>看護でよく使用される質的研究</b> 1.事例研究、2.歴史的研究、3.内容分析、4.KJ法、5.アクションリサーチ、6.民族誌学的研究法、7.グラウンデッドセオリー研究法、8.解釈学的、現象学的研究法 等がある。	質的研究にもいろいろある。左記の中で知っている研究名をあげてください。	30分
8	総括	総括		30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p><b>【教員からの一言】</b></p> <p>質的研究を自信をもってできるようになることを願っています。</p>
--

<p>【科目名】 子ども・母性とリハビリテーション心理学Ⅰ（原理）</p>	<p>【担当教員】 岩田まな（客） [研究室] 非常勤講師室</p>
<p>【授業区分】 心の健康科学コース開講科目</p>	<p>[内線番号]</p>
<p>【授業コード】 H 135</p>	<p>[メールアドレス] [オフィスアワー] 来学時に対応</p>
<p>【配当年】 1年次</p>	<p>【単位数】 1単位</p>
<p>【開講時期】 後期</p>	<p>【コマ数】 8コマ</p>
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>乳幼児の発達について基礎的な知識をもっていることが望ましい</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>乳幼児（特に1歳以下）の発達にかかわる母親の重要性を理解する</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>乳幼児の発達および母子関係について教科書とDVDで理解していく</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>健全な母子関係について、母親をなく奪われた幼い動物の行動などの研究も交えながら理解する</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>乳幼児に対する母親の大切さを理解する</p>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>試験70%、口頭試問30%</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>母子関係の心理学 依田著 大日本図書</p> <p>参考書 赤ちゃんの認識世界 正高著 ミネルヴァ書房</p> <p>参考書 まなごしの誕生 -赤ちゃん学革命- 下條著 新曜社</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	オリエンテーション	講義の目的、乳幼児の発達について 概説。	教科書序章を読んでおく	30分
2	少産少死の社会	現代社会における出生にかかわる問題	教科書1章を読んでおく	30分
3	新生児にとっての母親の役割	授乳行動からみえる母子関係	教科書2章を読んでおく	30分
4	母子の愛情の起源	母子の愛着関係	教科書3章を読んでおく	30分
5	母性行動	霊長類にみられる母性行動からヒトへ	教科書4章を読んでおく	30分
6	基本的信頼感	発達学研究者の報告をもとに	教科書5章を読んでおく	30分
7	望ましい教育的環境の提供	乳幼児の発達を促すには	教科書6章を読んでおく	30分
8	望ましい母子関係のために	現代の母子関係の問題点	教科書7章を読んでおく	30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
-----------

【科目名】 子ども・母性とリハビリテーション心理学Ⅱ（実践）	【担当教員】 氏名 尾崎フサ子 [研究室] E棟2階
【授業区分】 心の健康科学コース開講科目	[内線番号] 315
【授業コード】 h 211	[メールアドレス] ozaki@nur.ac.jp [オフィスアワー] 授業日の 16時30分まで〈原則〉
【配当年】 2年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
<b>【注意事項】</b> 《受講者に関わる情報》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を受講するには、子どもを愛している自分と様々な視点で子どもに触れることができる自分がいることを確認しておく必要がある。</li> <li>・さらに子どもの母親には、客観性をもった自身を示す。</li> <li>・上記にリハビリテーション心理学を加えて統合する。</li> </ul> 《受講のルールに関わる情報》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション心理学を挿入する。</li> </ul>	
<b>【講義概要】</b> 心理学には幅広い領域の学びがあります。ここで示す「心の健康」や「豊かな人間関係」への関心は特に高い位置づけにあります。こうした「健康や支援」をあつかう心理学のひとつが「リハビリテーション心理学」です。健康やリハビリテーションに関わる以上、ここでは医学的知識もまた大きな武器になります。 子どものアセスメントは、身体の発育と機能の発達、心理社会性の発達、生活習慣行動の発達状態を総合的に把握することによって行う。子どもは身体的・精神的側面において、常に成長・発達をしていることが特徴である。そのアセスメントは、生後月例・年齢に応じて行うことが求められる。 母親（父親）はもっとも身近な存在として子どものそばにいることから、いろいろな変化を見逃すことなく成長につなげる。	
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> 常にあたたかな目で子どもをみて欲しい。叱ることはしないで褒めてから叱るようにして子どもと一緒にあってほしい。 子どもの鋭い感性を理解する(知識)、笑顔(目)、話すときは子どもと同じ目線で話す。学習者は子どもから笑顔が返ってくるようにしたい。	
<b>【行動目標(SBO)】</b> 1. 知識：「子ども」には教えてほしいという気持ちを表わす。 2. 態度・習慣：「子ども」から教わりたいという姿勢 技能 「子ども」の実施した技術を否定しないでこんな方法もあることを示す。 3. 子どもを取り巻く社会や環境の変化について述べられる。 4. 子どもの気持ちを絵本通して理解することができる。	
<b>【評価に関わる情報】</b> 《成績評価の基準・方法》 レポート（A4 3枚以下）により評価する。（レポート100%）	
<b>【テキスト・教科書】</b> 参考までに 入門 リハビリテーション概論 第4版 中村隆一 医歯薬出版株式会社 2002	
<b>【指定図書・参考書】</b> だいじょうぶだよ、ゾウさん ローレンス ブルギニヨン著、ヴァレリー 文溪堂 2005, 1500円＋税	



【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	子どものリハビリテーション心理学 母親（親）のリハビリテーション心理学 子ども・母親とリハビリテーション心理学Ⅱ	子どもの気持ち、母親の気持ちを明確にする。「子ども」や「母親」の気持ちをを考察、患者と家族の希望に基づく、あるいは反対の場合もあるかもしれないが、何が可能か、何ができるかを考え決定する。	できる限り、多人数の子ども、一緒にいる母親といる時をつくる。小学校や幼稚園の「運動会はヒントをくれる」のでは？	30分
2	① 新生児期～1歳 ② 1歳1か月から1歳6か月	① 感覚運動的段階（表象能力がなく運動により対象を把握）、喃語がでる、あやすと微笑む、大きな声で笑う、人見知り、母親の後追い ② 始語	子どもの健康生活と養護 (乳児期)	30分
3	③ 2歳, ④ 3歳	③ 象徴的思考段階（具体的な物から離れた思考・行動）、2語文、ごっこ遊び、 ④ 1人称代名詞、役割遊び	子どもの健康生活と養護 (幼児前期)	30分
4	⑤ 4歳, 5歳, 6歳	⑤ 直感的思考段階（概念的出現の出現、ただし自己中心・直感的、ルールの理解） ⑥ 複文完成、競争意識	子どもの健康生活と養護 (幼児後期)	30分
5	学童期	具体的操作期 (直感に左右されず現実を思考できる)	子どもの健康生活と養護 (学童期・思春期)	30分
6	母性看護の意義・役割の常用性	資料は当日	学習内容の復習	30分
7	母子保健の変遷	資料は当日	学習内容の復習	30分
8	小児保健医療の動向	資料は当日	学習内容の復習	30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【教員からの一言】</p> <p>「子ども」は大人をモデルにしています。</p>
---

<b>【科目名】</b> アイデンティティ形成とリハビリテーション心理学	<b>【担当教員】</b> 宮岡里美 [研究室] E棟2階
<b>【授業区分】</b> 心の健康科学コース開講科目	[内線番号] 311
<b>【授業コード】</b> dbmh 136	[メールアドレス] miyaoka@nur.ac.jp [オフィスアワー] 9:00～17:30
<b>【配当年次】</b> 1年次	<b>【単位数】</b> 1単位
<b>【開講時期】</b> 後期	<b>【コマ数】</b> 8コマ
<b>【注意事項】</b> 《受講者に関わる情報》 特に心理学の専門知識を必要としない。 《受講のルールに関わる情報》 欠席する場合は事前連絡が望ましい。その場合は振替講義を検討する。	
<b>【講義概要】</b> アイデンティティ（自我同一性）の形成過程をライフサイクルの中で講じていく。中心となる概念はErik H. Eriksonの概念である。私は私であるという感覚、この私を自分でしっかりとコントロールして生きていきたいという欲求はどのように形成されてくるのかを考えていく。多様な価値観の中で自由に生きていくことが可能になった現在社会において、このアイデンティティ形成が困難となっている一側面にも言及していく。	
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> アイデンティティは多種多様な人とのかかわりの中で形成されていくものであることを理解できる。	
<b>【行動目標(SBO)】</b> 客観的に自己を認識でき、自己コントロール感がもてる。	
<b>【評価に関わる情報】</b> 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 試験60%、レポート40%の割合で評価する。	
<b>【テキスト・教科書】</b> 特に指定せず、必要な資料は配布する。	
<b>【指定図書・参考書】</b> E. H. エリクソン「自我同一性：アイデンティティとライフ・サイクル」（誠信書房） ISBNコード ISBN978-4-414-40246-9 尾形 和男（編著）「家族の関わりから考える生涯発達心理学」（北大路書房） ISBN 978-4-7628-2520-0 C3011	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	家族の関りと乳幼児の発達	微笑と社会性の発達、ヒトの顔の認識 感情の発達、愛着の理論	事後：学習した内容の復習	15分
2	乳幼児の社会性の発達	社会的参照、心の発達 自我の芽生え、遊びと仲間関係	事後：学習した内容の復習	15分
3	乳幼児の思考の発達	ことばの発達 認知・思考の発達	事後：学習した内容の復習	15分
4	学校生活のはじまり	認知・思考の発達 仲間関係：ギャングエイジ	事後：学習した内容の復習	15分
5	思春期・青年期における アイデンティティの形成：同一性	自我の芽生え（自己コントロール） 自我と自己概念	事後：学習した内容の復習	15分
6	思春期・青年期における 社会性の発達とアイデンティティ	家族・友人関係 進路選択、恋愛	事後：学習した内容の復習	15分
7	思春期・青年期における アイデンティティ形成の困難：拡散	学校不適応、無気力（学習性無力感） モラトリアム	事後：学習した内容の復習	15分
8	成人期・高齢期における アイデンティティの再形成（修正）	家族・職場の人間関係	事後：レポート課題	120分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】アイデンティティの形成は青年期に始まるものではなく、誕生まもない乳児が自己の欲求を発信した際に養育者から適切な反応が得られるか否かのときから始まっていることを理解していただきたい。そして、喩え青年期に形成されたとしても、それで完結するのではなく、“アイデンティティの形成”という課題は一生涯続くものであることも理解していただきたい。

【科目名】 キャリア形成とリハビリテーション心理学	【担当教員】 宮岡里美 [研究室] E棟2階
【授業区分】 心の健康科学コース開講科目	[内線番号] 311
【授業コード】 dbmH 137	[メールアドレス] miyaoka@nur.ac.jp [オフィスアワー] 9:00～17:00
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>事前の心理学専門知識は必要としません。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>講義を聴くのみでなく、積極的に自身でテーマに関する情報を収集し、分析して発表していただきます。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>キャリア形成期の身体的・心理的・社会的状況を概説していく。また、キャリア形成に関するストレス要因と対処法も検討していく。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>ワーク・ライフ・バランス（コントロール）を意識し、人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できることを理解する。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>自身の生き方を再考するのみでなく、教育・医療・福祉現場等での対象者に対しても適切な心理的支援ができる。」</p>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>試験20%、受講態度20%、レポート60%の割合で評価する。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>特に指定せず。資料は配布します。</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>内閣府HPより「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」</p> <p><a href="http://www.cao.go.jp/wlb/government/20barrier_html/20html/charter.html">http://www.cao.go.jp/wlb/government/20barrier_html/20html/charter.html</a></p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	ライフサイクル観 発達理論にみる成人期		事後：学習した内容の復習	20分
2	成人期の発達課題とアイデンティティ 恋愛・結婚と仕事	ライフコース	事後：学習した内容の復習	20分
3	ライフサイクルの中のキャリア形成	キャリアとは何か	事後：学習した内容の復習	20分
4	女性のアイデンティティ 女性の社会進出	多様な価値観	事後 レポート課題	120分
5	親になること 夫婦間のコミュニケーション	父親・母親の役割 子育てとそのストレス	事後：学習した内容の復習	20分
6	キャリアの“停滞”	M字型カーブ ワーク・ライフ・コントロール	事後：学習した内容の復習	20分
7	家族関係の変化と危機 職場・家庭のストレスとその対処法	家族システム	事後：学習した内容の復習	20分
8	まとめ 家族の発達・キャリアの発達	夫婦関係と家族機能	事後 レポート課題	120分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】多くの人が、仕事と生活が両立しにくい現実に直面しています。男女問わず誰もがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たす一方で、子育て・介護の時間や、家庭、地域、自己啓発等にかかる個人の自由な生活時間が持てる。この仕事と生活の調和を図るためにはどうすればよいのかを各自の問題として考えていきます。

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

【科目名】 高齢期とリハビリテーション心理学	【担当教員】 氏名 若松 直樹 [研究室] E棟 2F
【授業区分】 心の健康科学コース開講科目	[内線番号] 307
【授業コード】 dbmh 212	[メールアドレス] wakamatsu@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 月～木 (11:00～16:00)
【配当年】 2年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
<b>【注意事項】</b> 《受講者に関わる情報》 特になし。  《受講のルールに関わる情報》 特になし。	
<b>【講義概要】</b> 人間の生涯にわたる発達や生活の変化のうち、人生の総括を迎える時期における課題や課題の達成を阻害する疾病や障害に対して、どのような支援が必要であるかを見据え、介入の方法論、視点を概観する。  <b>【一般教育目標(GIO)】</b> 高齢期の課題や疾病・障害を理解し、対象者にとって必要な支援を多角的に検討できる。  <b>【行動目標(SBO)】</b> 健康に恵まれた高齢者、疾病・障害を抱える高齢者それぞれに必要な介入方法を実践できる。  リハビリテーション心理学は学際的心理学であることを踏まえ、受講生の専門性や関心領域から高齢期の課題を意識できる。	
<b>【評価に関わる情報】</b> 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。  レポート 80%、講義内ディスカッション 20%の割合で評価する。	
<b>【テキスト・教科書】</b> 必要な資料を配布する予定。	
<b>【指定図書・参考書】</b> 特になし。	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	イントロダクション	歳をとるとは？	WEB などから社会的情報の 収集・整理を集中的に行うこ とを求めます。	30
2	健常高齢者 1	高齢者の実際		30
3	健常高齢者 2	高齢者と社会参加		30
4	疾病・障害を抱える高齢者 1	疾病の理解		30
5	疾病・障害を抱える高齢者 2	疾病の評価・介入		30
6	疾病・障害を抱える高齢者 3	家族の支援		30
7	社会的困窮を抱える高齢者	経済問題・人間関係問題		30
8	まとめのディスカッション			

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

高齢者に関する社会的な出来事を自らの専門・関心領域へ引きつけながらいつも意識してください。

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

<p>【科目名】</p> <p>精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅰ（臨床）</p>	<p>【担当教員】 氏名 的場 已知子</p> <p>[研究室]</p>
<p>【授業区分】 心の健康科学コース開講科目</p>	<p>[内線番号]</p>
<p>【授業コード】 dbmh 138</p>	<p>[メールアドレス]</p> <p>[オフィスアワー] 来学時に対応</p>
<p>【配当年】 1年次</p>	<p>【単位数】 1単位</p>
<p>【開講時期】 後期</p>	<p>【コマ数】 8コマ</p>
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>医療現場における心理学の要素を生かした実際の治療について学びます。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>守秘義務についての契約書の記入を求めます。受講者の目的（臨床イメージ）を明確に持って下さい。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>実際に医療現場において活動を行い、スーパーバイズしていきます。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>医療現場における心理学的アプローチの必要性を理解すること。</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <p>自らの欠点を理解し、技術を向上すること。</p>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>実際のワークショップの成果 50%、レポート 50%。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>未定。</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>必要に応じてお知らせします。</p>	



【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	精神機能と生活障害に対するリハビリ テーションの基礎知識 1	心理リハビリを行うにあたり必要な基盤 を確認します。	学習した内容の復習	30分
2	精神機能と生活障害に対するリハビリ テーションの基礎知識 2		学習した内容の復習	30分
3	精神機能と生活障害に対するリハビリ テーションの基礎知識 3		学習した内容の復習	30分
4	心理リハビリの実践 1	実際の現場でのワークショップを行いま す。	学習した内容の復習	30分
5	心理リハビリの実践 2		学習した内容の復習	30分
6	心理リハビリの実践 3		学習した内容の復習	30分
7	心理リハビリの実践 4		学習した内容の復習	30分
8	総論	各自が課題に対してケースレポートを まとめ、発表します。	レポートの作成	120分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

医療現場におけるコミュニケーション能力の向上が必要です。

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

<p>【科目名】 精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅱ（国際）</p>	<p>【担当教員】 氏名 的場 已知子 [研究室]</p>
<p>【授業区分】 心の健康科学コース開講科目</p>	<p>[内線番号]</p>
<p>【授業コード】 dbmh 139</p>	<p>[メールアドレス] [オフィスアワー] 来学時に対応</p>
<p>【配当年】 1年次</p>	<p>【単位数】 1単位</p>
<p>【開講時期】 後期</p>	<p>【コマ数】 8コマ</p>
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>三日間連続受講可能な者。それ以外の者はプログラムの変更があります。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>守秘義務についての誓約書を求めます。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>心理リハビリの国際的理解を深める。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>異文化に対する理解を深め、国際的に活躍できる能力を身につける。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>様々な障壁を乗り越えて行動する力を持つ。</p>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>受講状況 50%、レポート 50%。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>受講者のレベルに応じて変更あり。後日お知らせします。</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>必要に応じてお知らせします。</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	国際的リハビリテーション心理における現場での実践。	実際の現場でレクチャーします。	学習した内容の復習	30分
2	国際的リハビリテーション心理における現場での実践。	実際の現場でレクチャーします。	学習した内容の復習	30分
3	国際的リハビリテーション心理における現場での実践。	実際の現場でレクチャーします。	学習した内容の復習	30分
4	国際的リハビリテーション心理における現場での実践。	実際の現場でレクチャーします。	学習した内容の復習	30分
5	国際的リハビリテーション心理における現場での実践。	実際の現場でレクチャーします。	学習した内容の復習	30分
6	国際的リハビリテーション心理における現場での実践。	実際の現場でレクチャーします。	学習した内容の復習	30分
7	国際的リハビリテーション心理における現場での実践。	実際の現場でレクチャーします。	学習した内容の復習	30分
8	総論	レポートをまとめ、評価を行う。	レポートをまとめること。	120分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
事前に学びたい内容を、個別で質問に応じます。

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

【科目名】 疾病との共生とリハビリテーション心理学	【担当教員】 宮岡里美 [研究室] E棟2階
【授業区分】 心の健康科学コース開講科目	[内線番号] 311
【授業コード】 dbmh 140	[メールアドレス] miyaoka@nur.ac.jp [オフィスアワー] 9:00～17:00
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>事前の心理学専門知識は必要としません。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>積極的に受講していただきたいと願います。関心あるテーマは自身で情報収集し、問題提起し、他受講者と意見交換していく姿勢を望みます。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>医療技術の進歩によりいろいろな後遺症を残した状態で、また、高齢化に伴ういろいろな慢性疾患をもった状態で、その後生きていく期間は長くなっています。これからの社会は、ほぼ全ての人が、ライフステージのどこかで病気とともに生きるという状態に遭遇していくと思われまます。日常生活機能を可能な限り保てるよう、家族・地域社会はどのような支援ができるのかを考えていきます。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>「病気（障害）と共に生きる」ことは本人、家族にとり大きなストレスを伴うことを理解する。しかし、そのことがイコール不幸ではないことを認識した上で、社会的・心理的な支援法を考案することができる。</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <p>「病気（障害）と共に生きる」人を自身の立場で適切に支援することができる。</p>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>授業参加態度40%、レポート60%の割合で評価する。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>特に指定せず。資料は配布します。</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	ライフサイクルにおける 成人期中期～後期の特徴	発達課題 生き方の再構成	事後：学習した内容の復習	20分
2	家族関係の変化からみた 成人期中期～後期の特徴	喪失体験：子どもの独立、定年退職 友人・家族との死別	事後：学習した内容の復習	20分
3	成人期中期～後期の身体・生理的变化 慢性疾患への心理的支援	慢性疾患罹患状況の分析	事後：学習した内容の復習	20分
4	疾病・障害の受容 患者様と医療人のかかわり	医療人としての支援	事後 レポート課題	120分
5	死の受容 モーニング・ワーク	“死の受容”のプロセス 喪失体験とうつ	事後：学習した内容の復習	20分
6	障害のある子どもとともに生きる 介護とストレス	子育ての難しさ 長期介護と介護者の生活変化	事後：学習した内容の復習	20分
7	施設での長期生活に対する支援	施設生活のストレス 回想療法	事後：学習した内容の復習	20分
8	自殺予防と傾聴支援 疾病・障害と共に生きる	自殺の現況とその原因／自殺予防 疾病・障害を共に支える	事後 レポート課題	120分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
病気や障害・後遺症をもちながらも充実した人生をおくるためにはどうしたらよいかという問題を考えてみたいと思います。

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

【科目名】 心理アセスメント特論	<b>【担当教員】</b> 氏名 若松 直樹、大矢 薫 [研究室] 若松(E棟2F)、大矢(D棟1F) [内線番号] 若松(307)、大矢(405) [メールアドレス] 若松: wakamatsu@nur05.onmicrosoft.com 大矢: ohya@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 若松: 月～木(11:00-16:00) 大矢: 月・水～金(9:00-18:00)
【授業区分】 心の健康科学コース開講科目	
【授業コード】 dbmH 213	
【配当年】 2年次	【単位数】 2単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 15コマ
<b>【注意事項】</b> 《受講者に関わる情報》 特になし 《受講のルールに関わる情報》 特になし	
<b>【講義概要】</b> 臨床心理学的な人格全般に関するアセスメントと神経心理学的な認知機能全般のアセスメントを理解する。	
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> 心理アセスメントをとおして対象者が抱える課題や現状を把握することができる。	
<b>【行動目標(SBO)】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人格検査としての代表的な質問紙法・投映法の技法を身につける。</li> <li>● 神経心理学的検査としての代表的な認知機能検査技法を身につける。</li> </ul>	
<b>【評価に関わる情報】</b> 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート50%、授業内ディスカッション50%の割合で評価する。	
<b>【テキスト・教科書】</b> 必要に応じて資料を配布する予定。	
<b>【指定図書・参考書】</b> 講義内で紹介する。	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1 若松	知的機能①	WAIS ほか	アセスメント技法の確認	60
2 若松	知的機能②			
3 若松	記憶機能①	WMS-R・RAVLT・ROCFT ほか		
4 若松	記憶機能②			
5 若松	前頭葉機能③	stroop test・word fluency test ほか		
6 若松	前頭葉機能④			
7 若松	認知症・高次脳機能障害①	検査バッテリー		
8 若松	認知症・高次脳機能障害②			
9 大矢	臨床心理学的アセスメントとは？	ケース・フォーミュレーション		
10 大矢	質問紙法①	TEG		
11 大矢	質問紙法②	MMPI、YG		
12 大矢	質問紙法③	BDI、STAI		
13 大矢	投影法①	文章完成法 (SCT)		
14 大矢	投影法②	バウム・テスト		
15 大矢	投影法③	ロールシャッハ・テスト		

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

H30 年度開講予定の科目です。心理アセスメントを通しての対象者を理解することの有効性と課題を意識してください。

<p>【科目名】 サイコセラピー特論</p>	<p>【担当教員】 氏名 若松 直樹、大矢 薫                  [研究室] 若松(E棟2F)、大矢(D棟1F)                  [内線番号] 若松(307)、大矢(405)                  [メールアドレス]                  若松: wakamatsu@nur05.onmicrosoft.com                  大矢: ohya@nur05.onmicrosoft.com                  [オフィスアワー] 若松: 月～木(11:00-16:00)                  大矢: 月・水～金(9:00-18:00)</p>
<p>【授業区分】 心の健康科学コース開講科目</p>	
<p>【授業コード】 dbmH 214</p>	
<p>【配当年】 2年次</p>	<p>【単位数】 2単位</p>
<p>【開講時期】 前期</p>	<p>【コマ数】 15コマ</p>
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>特になし</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>特になし</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>代表的なサイコセラピー(心理療法)の実際から、心理的支援を必要とする人々への介入手段を理解する。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>サイコセラピーに必要な支援者の態度、行動を身につける。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>サイコセラピーに共通する「傾聴」「共感的理解」を実践できる。</p> <p>面接をとおして対象者にとっての課題の整理や思考・行動の変容を促すことができる。</p>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>レポート50%、講義内ディスカッション50%の割合で評価する。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>必要に応じて資料を配布する予定。</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>講義内で紹介する。</p>	



【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1 若松	イントロダクション	心の危機への介入	<ul style="list-style-type: none"> <li>●サイコセラピーに関する自らの問題意識を明確にする。</li> <li>●日々の対人関係において面接という視点を意識する。</li> <li>●各技法の特徴をふりかえる</li> </ul>	60
2 若松	面接者の構え・態度	人間理解としてのサイコセピー		
3 若松	傾聴	面接という人間関係 1		
4 若松	自らの対人パターン	面接という人間関係 2		
5 若松	来談者中心療法①	自己理論		
6 若松	来談者中心療法②	文献より		
7 若松	来談者中心療法③	文献より		
8 若松	サイコセラピーによる心理的支援とは？	サイコセラピーの課題		
9 大矢	精神分析的心理療法①	転移、逆転移		
10 大矢	精神分析的心理療法②	防衛機制		
11 大矢	認知行動療法①	思考を変える		
12 大矢	認知行動療法②	行動を変える		
13 大矢	認知行動療法③	感情を調整する		
14 大矢	ポジティブ心理学とサイコセラピー①	ポジティブ心理学の理論		
15 大矢	ポジティブ心理学とサイコセラピー②	ポジティブ心理療法		

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

H30 年度開講予定の科目です。心の支援に必要な技術と同時に、心の支援のあり方について意識を高めてください。

<p>【科目名】 アートセラピー特論</p>	<p>【担当教員】 氏名 的場 已知子、非常勤教員 [研究室] 非常勤講師室（非常勤講師）</p>
<p>【授業区分】 心の健康科学コース開講科目</p>	<p>[内線番号]</p>
<p>【授業コード】 dbmh 215</p>	<p>[メールアドレス] [オフィスアワー] 来学時に対応</p>
<p>【配当年】 2年次</p>	<p>【単位数】 1単位</p>
<p>【開講時期】 前期</p>	<p>【コマ数】 8コマ</p>
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>特に芸術的な能力や経験の有無は問いません。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>事前に希望する内容等のアンケートを取らせて頂きます。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>芸術療法についての基礎から実践までを分かりやすく学びます。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>芸術療法を理解し、自ら計画をすることができる。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>芸術療法を自分で行うことができる</p>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>受講態度 50%、レポート 50%。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>希望内容により変更があるため、必要に応じて早目に個別でお知らせします。</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>目的があればその分野について後日お知らせ致します。</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	アートセラピーの基礎知識 1	アートセラピーの基本を学ぶ。	興味のある分野について質問 があれば事前に準備して下さ い。	30分
2	アートセラピーの基礎知識 2			
3	アートセラピーの組み立て方 1	実際にセラピーを行うにあたり必要な事 項を学びます。	学習した内容の復習	30分
4	アートセラピーの組み立て方 2			
5	実際のアートセラピーの体験 1	実際に行ってみる。	自らのプランを立てる。	60分
6	実際のアートセラピーの体験 2			
7	自らの企画でセラピーを行ってみる 1	自分で立てた計画を実践してもらい、 レクチャーします。	学習した内容の復習	30分
8	自らの企画でセラピーを行ってみる 2			

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

受講人数、受講者の興味によって内容の変更があります。

<p>【科目名】 支援コミュニケーション特論</p>	<p>【担当教員】 氏名 若松 直樹 [研究室] E棟 2F</p>
<p>【授業区分】 心の健康科学コース開講科目</p>	<p>[内線番号] 307</p>
<p>【授業コード】 dbmh 216</p>	<p>[メールアドレス] wakamatsu@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 月～木 (11:00～16:00)</p>
<p>【配当年】 2年次</p>	<p>【単位数】 1単位</p>
<p>【開講時期】 前期</p>	<p>【コマ数】 8コマ</p>
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>特になし</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>特になし</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>支援を行う際のコミュニケーションには何が必要であるのか。必ずしも面接場面には限らない支援者の態度・関わりを検討する。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>特に心の支援におけるコミュニケーションにおいて必要な工夫を身につける。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>自らのコミュニケーションの特徴を理解する</p> <p>自らの対人パターンを理解する</p>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>レポート 50%、講義内ディスカッション 50%の割合で評価する。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>必要に応じて資料を配布する予定。</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>特になし。</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1-2	イントロダクション 対人支援のコミュニケーション	対人支援において特徴的なコミュニケーションとは？	講義のふりかえり	60
3-4	子供(学校)での支援 成人(会社)での支援	文献を通してのディスカッション	問題意識の明確化	60
5-6	精神障害への支援 社会的困窮への支援	文献を通してのディスカッション	問題意識の明確化	60
7-8	支援者の対人コミュニケーションの特徴 まとめ	自らのコミュニケーションの特徴 と、それを生じさせるものの見方や 考え方を検討する	講義を終えてのふりかえり	60

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
心の支援者としての態度と行動をいつも意識してください。

